

JENESYS2025 日本・インドネシア若手外交官・行政官 政治・文化・海洋交流 (招へいプログラム) の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】

本プログラムは、インドネシアの若い世代が、日本の外交政策や政治・経済などの主要政策について講義や意見交換を通じて理解を深め、関係者とのネットワークを構築することを目的に実施しました。また、参加者に海洋分野の行政に関わる者を含むことから、日本の海上保安や水産に関連する視察や取り組み事例も取り扱い、日本に対する多角的な理解を促進し、友好と連携の強化を図りました。

【参加者】インドネシアの若手外交官・若手行政官（パプア州地方行政官含む）、
海洋保全・海洋経済関係者 合計 15 名

【訪問地】東京都 15 名、宮城県 15 名、岩手県 15 名

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）:

1 月 27 日（火曜日） 【来日前オリエンテーション】
来日までの指定期間 【課題学習（動画配信）】「事前オリエンテーション」「ホームビジット体験」「南三陸町からのメッセージ」「日本文化理解（京都）」「ホストタウンの取り組み」「日本語」

■ 招へいプログラム:

2 月 3 日（火曜日） 成田国際空港より入国
【来日時オリエンテーション】
【表敬訪問】外務省 南東アジア第二課 春原 優子 主査
【視察】浅草

2 月 4 日（水曜日） 【講義】「海上保安庁業務概要」
講師：海上保安庁 国際戦略官付企画係長 溜 宏三郎 氏
【テーマ関連視察】海上保安資料館横浜館
【視察】横浜赤レンガ倉庫

2 月 5 日（木曜日） 東京都から宮城県へ移動
【表敬訪問】宮城県庁国際政策課 高橋 征史 課長

2 月 6 日（金曜日） 【視察】気仙沼図書館
【表敬訪問】気仙沼市 菅原 茂 市長
【文化体験】岩井崎塩づくり体験館

2月7日（土曜日）	【ホストファミリー対面式】 【ホームステイ】陸前高田市
2月8日（日曜日）	【ホストファミリー歓送会】 【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、SNS 発信状況等確認、 帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）
2月9日（月曜日）	岩手県から東京都へ移動 【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表
2月10日（火曜日）	成田国際空港より出国

2. 記録写真

招へいプログラム

	
2026年2月3日【表敬訪問】 外務省 南東アジア第二課 春原 優子 主査	2026年2月3日【視察】浅草
	
2026年2月4日【講義】「海上保安庁業務概要」	2026年2月4日【テーマ関連視察】 海上保安資料館横浜館
	
2026年2月5日【表敬訪問】 宮城県庁国際政策課 高橋 征史 課長	2026年2月6日【視察】気仙沼図書館

	
2026 年 2 月 6 日【表敬訪問】 気仙沼市 菅原 茂 市長	2026 年 2 月 6 日【文化体験】 岩井崎塩づくり体験館
	
2026 年 2 月 7 日【ホームステイ】	2026 年 2 月 8 日【ホストファミリー歓送会】
	
2026 年 2 月 8 日【ワークショップ】	2026 年 2 月 9 日【報告会】 集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 行政官（海上保安機構）

私にとって、ホームステイは本プログラムの中でも最も印象深い、いわばハイライトとなる経験でした。JENESYS の一連のプログラムに参加することで、日本人らしさや日本独自の文化を知り、親しむことができる機会だったと感じています。時間を厳守し、清潔な環境を保ち、互いに尊重し、相手を思いやる態度など、日常の中に息づく価値観を実感しました。スケジュールは綿密に組まれており、常に事前準備ができるよう配慮されていました。また、ゴミを各自で持ち帰るなど、清潔を保つことが徹底されていることに感銘を受けました。

今回の滞在を通じて初めて知った日本の習慣もあります。食後の歯磨きや、帰宅後にうがいをする習慣です。とても衛生的だと感じましたし、そのような習慣があることで、互いに気持ちよく会話や交流ができるのだと思いました。

さらに、どの訪問先でも、私たちの到着時には入り口で出迎えてくださり、帰る際には見えなくなるまで見送ってくださるなど、一人ひとりが私たちの訪問を心から尊重してくださっていることが強く印象に残りました。日本という国の温かさを心から実感しました。

◆ 行政官（海上保安機構）

プログラム中の訪問で最も印象に残ったのは、日本の沿岸域及び海域を守る上で、先進技術と高度に訓練された人材を統合した、海上保安庁の包括的な海上安全保障への取り組みでした。複雑化する海洋環境の中で海上の安全と治安を確保するためには、強力な機関間の連携と継続的な能力強化が不可欠であることを示していると感じました。

◆ 外交官

日本の公共施設や行政機関なども視察する機会を得たことで、より深く日本のことを理解することができました。表面的な見学にとどまらず、その背景まで掘り下げて知る貴重な機会となりました。その中でも、特に心に残っているのはホームステイです。日本で新しい「家族」と出会い、お父さんやお母さんと呼べる存在に出会えました。一生心に残る大切な思い出になりました。

◆ 外交官

陸前高田を訪れ、ホストファミリーに東日本大震災津波伝承館へ連れて行っていただいたことが印象に残っています。日本の人々は自分の仕事に強い責任感を持ち、先を見据え、解決策を考え、災害時に迅速に行動できるよう常に備えているという、新たな気づきを得ることができました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ ホストファミリー

外国の方の民泊の受け入れ、受け入れるまではかなり緊張していましたが、民泊中は楽しく過ごすことができ、終了後も疲れより高揚感が上回っていました。言葉の壁があっても、表情や態度などより感情を読み取ることができると感じました。

◆ ホストファミリー

受入れ前は言葉や文化の違いがあるため心配していましたが、終わってみれば楽しかったです。インドネシア料理のナシゴレンとタフゴレンを作ってもらいました。

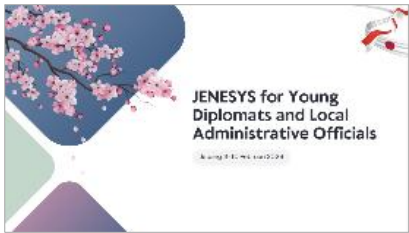
5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	
2026 年 2 月 5 日（Instagram） 行政官（海上保安機構）	2026 年 2 月 9 日（Instagram） 外交官

海上保安庁の日 日本がどのように海を守っているのかを学び、海上保安資料館で実際の海上保安の歴史を知ることができました。そこで取り上げられていたのは、拿捕を避けるため自爆を選んだ不審船に関する過去の事件です。 海上保安の世界がいかに複雑であるかを強く実感させられました。 貴重なお話を聞けたことに感謝しています。	気仙沼市図書館 気仙沼は JENESYS ASEAN の参加者を温かく迎えてくれました。 インドネシアは気仙沼の復興支援として 200 万ドルを寄付し、その成果の一つがこの図書館です。ここは、2011 年の津波を経験した地域の人々が集い、互いに支え合うための「安全な居場所」となっています。館内には、インドネシアと日本の強い絆を象徴する「ユドヨノ友好子ども館(Balai Anak Persahabatan Yudhoyono)」も設けられています。 さらに図書館には、乳幼児向けのプレイルームや体操スペースもあり、母親と家庭を支えるという政府の思いが込められています。 復興とは、都市を再建することだけではなく、未来を担う子どもたちを育むことでもある—そのことを改めて感じさせてくれました。
	
2026 年 2 月 7 日 (Instagram) 外交官 JENESYS ASEAN の代表として、気仙沼市が私たちの訪問を受け入れてくださったことへの心からの感謝を、温かく丁寧にお迎えくださった気仙沼市の菅原茂市長に直接お伝えでき、大変光栄に思いました。	2026 年 2 月 7 日 (Instagram) 行政官 (海上警察) 最も印象深いプログラムは、地域のご家庭へのホームステイです。私たちは 80 歳のご夫婦のお宅に滞在させていただきました。おじいちゃんとおばあちゃんと過ごした時間は、かけがえのない最高の体験となりました。温かく迎えてくださり、皆で笑い、幸せな時間を過ごしました。まるで本当の孫のように可愛がってもらいました。素敵な経験で、心から感謝しています。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：東京都、宮城県、岩手県 全1グループ発表





【成果の発表】

◆ 訪日中の学び

先進国としての日本の技術の高さなどは想像していた通りでしたが、プログラムやホームステイを通じて、日本人と交流を重ね、個人主義で閉鎖的な印象のある日本人が、実はフレンドリーで温かく、家族と地域のつながりを大切に、自分のことよりも他人を思いやる、責任感が強くホスピタリティに溢れた人たちだと知ることができました。

◆ テーマ「政治・文化・海洋交流」の学び

環境、特に海洋・港湾への環境意識が高く、海がきれいです。また防災意識が高いです。これは各地の資料館、博物館が充実していること、また、単なる展示にとどまらず、理解を深められる意味のある展示されていることも大きく貢献していると思いました。

【アクション・プラン】

①「海洋ゴミ意識向上パトロール」

内容：漁船と協力して海洋ゴミのチェックを行います。

担当者：海洋水産省、時期：2026年5月第1週、対象者：マルク諸島の漁船

②「港湾美化」

内容：港湾内の清掃及びゴミの分別に関する啓発活動を行います。

担当者：運輸省、時期：2026年4月、対象者：港湾清掃関係部局

③「海洋愛護月間」

内容：ビーチクリーンを行います。

担当者：海洋水産省、時期：2026年4月、対象者：中部ジャワ州チラチャップ、トゥルック プニユ沿岸部周辺住民

④「マイドファ アイドマ（私ができること、あなたができること）」

内容：ビーチクリーンを行います。

担当者：スピオリ県、時期：2026年4月、対象者：スピオリ県沿岸部地域の児童

⑤「SAR Goes to School」

内容：自分を守る力を育むため、防災（地震・火災）訓練を実施します。

担当者：インドネシア国家捜索救助庁、時期：2026年4月、対象者：ジャカルタ首都圏の小学校・中学校

⑥「洋上図書館を子どもたちへ！」

内容：ジャカルタ沿岸部所属の既存の図書館・診療船の環境整備を図ります（子ども向けの図書の充実、子どもの遊び場の確保など）。

担当者：海洋警察、時期：2026 年 3 月、対象者：ジャカルタ・プロウスリブ諸島沿岸地域の園児・児童

⑦「暮らしの“カイゼン”」

内容：歯磨き、家庭菜園、5 分前行動を実践します。

担当者：インドネシア海上保安庁、時期：2026 年 3 月、対象者：JENESYS 参加者及びその家族

⑧「外国語チャレンジ」

内容：各媒体を活用し、外国語能力の習得、向上を図ります。

担当者：海洋水産省、時期：2026 年 3 月、対象者：JENESYS 参加者

⑨「ランチクラブ シェア セッション」

内容：JENESYS を通じて得られた学びや気づきを共有します。

担当者：外務省、時期：2026 年 2 月第 3 週、対象者：外務省外交政策戦略局の上長、同僚、インターンシップ生

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）